

タイム・マネージャー 時間管理人

6

「夢の街」という
おとぎ話のような
街は小高い丘の
中腹あたりに
ありました

その場所は
誰も分かりま
せんでした

おえっ





あなた様のお越しをお待ちしておりました

どうぞこちらでおくつろぎ下さいませ



チャカ

あの〜



どうやってここまで来たのか覚えてないんですが……



ここはどこなんでしようか？



そうなのですか



「夢の街」と言う所なのですよ

気がつくと皆さまお店の前に立っているのですよ



分かり
ました



アルコールを
やめてますので
烏龍茶を
ください



何かお飲み物
でもお作りしま
しょうか



ゴク
ゴク

お客様 お悩み事が
おありでしたら
私に話してみても
いかがでしょうか



どうぞ

ありが
とう



入ったカバンを
酔ってどこかに
置き忘れたとの
事だった

男の話を要約
するとこうだ
大事な土地の
売買契約書が

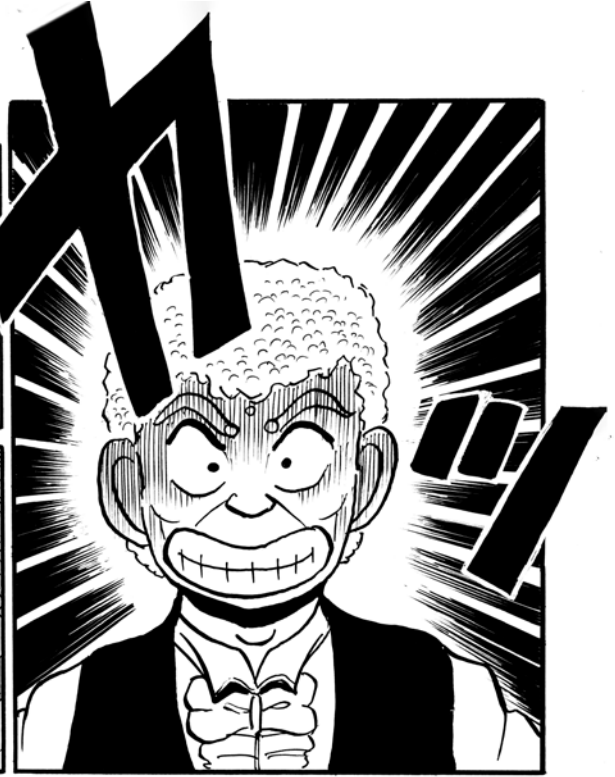


男は安堵感と
疲れからか少し
ずつ話し始めた



飲物には精神を
リラックスさせる
妙薬が入っていた
のです







あとから
また来るよ

油知

ごめん
親父さん



らっ
しやい

シ
シ
エ
ー



ガラ
ガラ



大事な契約書を
事務所に置いてから
飲み屋に行ったの
でした

看板
だよ

牛羽先
ぼんじり
かわ
ハツカ
すほきも
いきま
もも
ささみ

もう飲め
ません
ヒック

こうして男は
飲み過ぎてても
カバンを置き
忘れる事は
無かったのです



抱えた方
ばかりなの
です

このお店に来られる
お客様は皆様
大きな悩みを



人は生まれ
落ちた時から
悩み続ける
生き物なのです



そんな人達を
救済する事が
私が地球に來た
目的なのです

この地球という
星では 平気で
人をだましたり
嘘をついたり
横行し過ぎて
います



そんな世の中を
少しでも良く
しようとするのも

私の使命
なのです
そう私は
人間では
ありません



ほらまた
お客様が
來られた
みたいで
す



過去を
リセット
する方が

END